

知る、深める、役立てる。
応用脳科学とAI開発を産業応用に

2025
CAN活動ご紹介

汎用人工知能(AGI: Artificial General Intelligence)への道



AAAI 2025 PRESIDENTIAL PANEL ON THE Future of AI Research

Published March 2025

出典:<https://aaai.org/wp-content/uploads/2025/03/AAAI-2025-PresPanel-Report-FINAL.pdf>
<https://xenospectrum.com/is-it-difficult-to-achieve-agi-just-by-scaling-up-current-ai/>

今年3月に公表された米国人工知能学会(AAAI)のレポートによれば、

数百人規模のアンケートを行なったAI専門家の76%が現在の機械学習のパラダイムを単にスケールアップしていくだけでは「AGI*」の実現可能性はかなり低いと考えていると報告されている。

現在の特化型AIは大量のデータ(画像・文字情報)を様々なモデルを活用し高速で解析し、平均的に適切な情報を出力するという点では加速度的に進化しているが、感情・情動、個性等、ヒトの心に関する能力は持っていないと言われている。

* AGIとは、一般的には、人間と同レベルのさまざまな知的作業を実行できる能力を有する汎用的なAIを意味する。

灯台下暗し～日本の文化を学ぶIMD



- IMDは世界トップクラスのビジネススクール(@スイス)
- 各国の国際的競争力をランキングする「世界競争力ランキング」で有名
- 2023年からGlobal Immersion Japanと題したエグゼクティブMBAプログラムの一環として、世界各国から30名の経営幹部が日本を訪問し、禅、生け花、合気道、日本酒作りの匠たちと交流、体験する「文化体験プログラム」を実施

(出典:世界の経営幹部なぜ日本に感化されるのか)

- 『美は細部に宿る(God is in the details)』は単なる「美」ではなく、より深く細部にこだわることの価値、重要性を示唆
⇒『日本的美意識』の含意
- 日本には優れた学術研究者、匠、そして企業の社員がいるが、彼らの有する『日本的美意識』の継承、育成、そして活用が『鍵』
⇒日本人の脳を理解する価値

出典https://bookplus.nikkei.com/atcl/catalog/23/06/01/00838/?cx_testId=4&cx_testVariant=cx_1&cx_artPos=2&i_cid=nbpbkp_atcl_rec#cxrecs_s

脳科学とAIの融合が切り拓く、未来の産業革新

知の力を実践へ

一般社団法人応用脳科学コンソーシアムは、脳科学、心理学、人工知能、行動科学などの最新の研究を基盤に、「研究開発」「人材育成」「社会啓発」に取り組む組織です。

ヒトの意思決定や行動に関わる脳、心理、生理、環境の情報を共同で取得・蓄積し、産学連携で研究開発を行い、その成果を社会やビジネスへ活用することを目指しています。

2020年度からは、異業種の企業や研究者が集まり、

- 1.脳科学とAIを融合した「脳融合型AI」の研究開発
- 2.応用脳科学の研究開発の促進
- 3.最新の知見の獲得

を推進する場を創出し、知識の習得や具体的な研究活動を展開しています。

※CANIにおける応用脳科学の定義は、脳に関する様々な研究成果や知見(行動・生理・心理を包含)を産業(医療・福祉・教育を含む)に応用することを目的とし、脳に関する知見を中心に、神経科学、人工知能学、心理学、認知科学、行動科学、社会学、経済学、工学、情報学、教育学、経営学(マーケティング、人材育成、組織論等)などの異なる研究分野を融合して、出口として産業発展への貢献を目指す研究としております。

応用脳科学コンソーシアムの歩み

一般社団法人 応用脳科学コンソーシアム
can Consortium for Applied Neuroscience

日本における脳科学の産業応用に関する取組みを継続・拡大

2008

NEDO「脳科学の産業分野への展開に関する調査事業」受託

2010

応用脳科学コンソーシアム発足(CAN)

(NTTデータ経営研究所の任意団体)

(16社(同年度末22社)でスタート:日本神経科学学会と連携)

2013

文科省COI STREAM革新的イノベーション創出プログラムに生理学研究所とともに参画(10年後を見通した革新的な研究開発課題解決に向け革新的なイノベーションを産学連携で実現するためのプログラム)

2015

総務省「インテリジェント化が加速する」ICTの未来像に関する研究会事務局運営

2017

NICT/CiNetとの共同研究強化

2018

数十社の業界を代表するリーディング企業と脳科学、心理学、AI等の最先端研究に取り組む約100名の研究者が参加

2020

社団法人化(一般社団法人応用脳科学コンソーシアム)し、より中立的かつ研究開発を強化した新たな場として始動

2025

脳科学とAIの融合を推進し、「社会実装に資す脳のモデル化」の実現に向け応用研究活動を推進

会員企業・団体一覧

2025年3月31日現在(敬称略・休会含む、但し、非公開企業を除く)

*は脳モデル開発ユニット参加企業

素材(香料を含む)産業

Asahi**KASEI** *

 **TAKASAGO** *

 **Color & Comfort**
RESONAC

コンサル・市場調査産業

 **アイデアラボ** ※2025年度から参加
IDEARABO CONSULTING

NTT DATA *
株式会社 NTTデータ 経営研究所

人材派遣業

 **パーソル ダイバース**
PERSOL

出版・印刷・文具・教育産業

ShoPro
a leading force in edutainment

DNP

 **JMAM**
JAPAN MANUFACTURING ASSOCIATION

 **PILOT**

OVOL
日本紙パルプ商事株式会社

AI・ニューロベンチャー

 **ARAYA**

 **VIE**

 **Kokorotics**

 **SandBox**

 **Vext**

日用品・化粧品・医薬品産業

KEAN ※2025年度から参加
HEALTH

 **Sumitomo Pharma**

 **mandom**

 **unicharm**
ユニチャーム

IT・電子機器産業

NTT DATA *

OKI Open up your dreams

 **SHIMADZU**
Excellence in Science

 **日本信号株式会社**
NIPPON SIGNAL CO., LTD.

Panasonic

YOKOGAWA ◆
Co-Innovating tomorrow™

一般社団法人 **応用脳科学コンソーシアム**
canC Consortium for Applied Neuroscience

輸送機器産業

 **NISSAN**

HONDA
The Power of Dreams

 **MAZDA**

建築・オフィス・都市開発産業

KOKUYO
ひらめぎ・はかどり・ここちよさ

 **TAKENAKA** *

光学機器産業

 **東海光学株式会社**

 **Nikon**

飲食・外食産業

Asahi *

SUNTORY
SUNTORY BEVERAGE & FOOD

ZÉNSHO

金融・保険産業

 **SMBC** *

財団・社団法人等

KiiS

一般社団法人
**社会的健康
戦略研究所**
Social Health Strategy Research Institute

 **JNNS**

漢検

 **日本脳科学関連学会連合**
Union of Brain Science Associations in Japan

※各企業・団体の主な事業領域によって分類。 ※各事業領域内で50音順に表記しております。

CAN活動ユニット・プラットフォームについて

高い価値を生み出す 2つのユニット

CANの活動はユニットを中心に展開され、脳科学の産業応用を深化させてきました。蓄積した知見を活かし、脳融合型AIの研究開発、応用脳科学の促進、最新知見の獲得を推進しています。

異業種の企業や研究者が集うこの場で、ユニットは活動の基軸として機能し、知の融合を加速させています。以下のユニットとプラットフォームを通じ、より実践的なアプローチを展開しています。



01

脳モデル開発ユニット

産学連携型研究開発ユニット

- ・ 研究開発資金を搬出した会員企業で構成
- ・ 産学連携の1ユニットから成る、脳科学と人工知能を融合した脳融合型AIの本格的な研究開発

02

応用脳科学活動ユニット

5つの機能を持つ実践の場

1. 応用脳科学アカデミー
2. 応用脳科学SIG
3. 応用脳科学R&D研究会
4. 応用脳科学ネットワーク
5. 応用脳科学資格検定制度
(応用脳科学プラクティショナー)



01 脳モデル開発ユニット

About 概要

開発資金を提供する会員企業が協力し、
産学連携型で脳科学とAIを融合。

五感・情動データの定量化・モデル化を
通じた価値評価・探索・予測の研究
開発を推進。

Origin 背景

従来のAIは世の中に溢れている
動画・文字等の視覚情報、聴覚情
報膨大なデータを必要とし、平均
的な人間の模倣はできてもパーソ
ナルな人の情報理解は難しい。こ
れに対し、脳融合型AIはデータ量
を大幅に削減し、脳に発現した反
応を言語化、さらに快情動を生ず
る外部刺激を探索・予測できる。
第一線で活躍する神経科学・心理
学研究者と究開発資金を提供す
る会員企業が共同で、脳科学とAI
を融合し革新的な研究開発を推
進する。

2025 目標

- ・ 視覚と嗅覚のクロスモーダル
感性価値
- ・ 視覚と触覚のクロスモーダル
感性価値
- ・ 空間感性価値
- ・ コミュニケーションにおける
感性価値

Suitable 対象

戦略的にAI・データ活用を取り入れ、
製品・サービスのエモーショナルな価
値の予測・評価技術を高度化し、新
たなAIを活用した研究開発力を強
化・推進する意欲のある企業様。

脳モデル開発ユニット参加企業(50音順、2024
年3月31日現在)

- ・ 旭化成株式会社
- ・ アサヒクオリティアンドイノベーションズ
株式会社
- ・ 株式会社NTTデータ
- ・ 株式会社NTTデータ経営研究所
- ・ 高砂香料工業株式会社
- ・ 株式会社竹中工務店
- ・ DIC株式会社
- ・ 株式会社三井住友フィナンシャル
グループ

02 応用脳科学活動ユニット

02

応用脳科学活動ユニット

応用脳科学アカデミー

第一線で活躍されている脳科学、心理学、AI、行動科学等の研究者を講師として招聘し、様々な観点から人間と脳について学ぶ人材育成のプラットフォーム

応用脳科学SIG (Special Interest Group)

2022年度より設置。新たなビジネスシーズの発掘を目的とし、関心を持つビジネスパーソンと研究者が議論する場として機能

応用脳科学R&D研究会

特定の研究テーマについて、脳科学、心理学、人工知能等の最新の研究知見を活用した応用脳科学研究をトライアル実施する研究開発のプラットフォーム

応用脳科学ネットワーク

応用脳科学研究に関連する情報をメルマガ、レポート等で提供、コンソーシアム活動の社会への発信を促進する情報発信活動を行うプラットフォーム

応用脳科学資格検定制度 (応用脳科学プラクティショナー)

世界的にも権威のある日本を代表する研究者を運営委員として迎え、応用脳科学アカデミー受講などで獲得した知見などを事業活用につなげることを後押し



About 概要

応用脳科学アカデミーは、脳科学、心理学、行動科学、脳型AI等の基礎から最先端の知見まで習得できる学習の場です。

日本を代表する世界的に権威のある研究者が講師を務め、事業活用の視点から脳科学を学ぶことで、応用脳科学の発展と産業への活用に貢献する、他に類を見ない人材育成のプラットフォームです。

Uniqueness 特長

1. 各分野で実績を持つ、日本を代表する専門家講師陣による高品質な講義
2. 最先端の研究と実務の視点を融合した講義で、深い理解と実践への応用が可能
3. オンデマンド視聴対応で、繰り返し受講可能
4. R&D部門以外の、経営企画、マーケティング、人材育成、人事等、企業内の様々な部門で脳に関心のある方が受講できるよう、実務に活かせる内容を厳選

応用脳科学アカデミーとSIG・R&D研究会の関係

応用脳科学アカデミー

関連するSIG

関連するR&G研究会

Basic
1

応用脳科学の基礎

Basic
2

人間計測の基礎

Basic
3

先端科学のELSI
(倫理的・法的・社会的課題)

Advance
1

脳に学ぶAI

脳型AIやニューロテック開発に必要なとなる計算論的神経科学、自由エネルギー原理(能動的推論)、研究開発に活用できる神経オルガノイド等の知識を習得

Advance
2

脳を知り脳に聞く

脳の視点から消費価値理論、ダイナミックプライシング、推し活、美などを俯瞰し、マーケティング、R&Dに役立つ人間と脳の知識を習得

Advance
3

脳を育む

障がい者雇用、心理的安全性確保など企業に求められる人材育成、組織構築に関連する脳の能力に関する知識を習得

Advance
4

脳と健康

脳と情報技術から考えるWell-being・ヘルスケア・情報医療等に関する知識を習得

Advance
5

特別コース

CiNetの最新研究を紹介

脳から考える偽・誤情報
対策SIG

計算論的脳・認知行動
モデリングSIG(新規)

自由エネルギー原理の
産業応用 SIG(継続)

神経オルガノイド研究会
(新規)

ブレイン・プライシング
戦略SIG(新規)

香り×人間情報DB研究会
(継続)

「日本の美意識」と
ビジネスSIG(新規)

手書き価値研究会
(継続)

「推し」の脳科学SIG
(継続)

脳から考える創造性・
共感研究会(継続)

脳から考える
DE&I SIG(継続)

脳から考える居住・発育
環境空間SIG(継続)

Well-living for Well-being
研究会(継続)



応用脳科学資格検定制度

(資格証明:「応用脳科学
プラクティショナー」)

片岡 洋祐

(神戸大学)

脳科学の基礎知識(1)

片岡 洋祐

(神戸大学)

脳科学の基礎知識(2)

片岡 洋祐

(神戸大学)

脳科学の基礎知識(3)

梅田 聡

(慶應義塾大学)

認知神経科学の基礎(1)

梅田 聡

(慶應義塾大学)

認知神経科学の基礎(2)

梅田 聡

(慶應義塾大学)

認知神経科学の基礎(3)

茨木 拓也

(NTTデータ経営研究所)

ニューロテクノロジー概論

沖野 将人

(NTTデータ経営研究所)

初学者のための
計算神経科学とAIの基礎

松田 壮一郎

(筑波大学)

行動デザイン入門(1)

松田 壮一郎

(筑波大学)

行動デザイン入門(2)

松田 壮一郎

(筑波大学)

行動デザイン入門(3)

岡田 謙介

(東京大学)

ヒト心理計測基礎(1)

岡田 謙介

(東京大学)

ヒト心理計測基礎(2)

岡田 謙介

(東京大学)

ヒト心理計測基礎(3)

番 浩志

(脳情報通信融合研究センター)

脳計測の基礎(1)

番 浩志

(脳情報通信融合研究センター)

脳計測の基礎(2)

番 浩志

(脳情報通信融合研究センター)

脳計測の基礎(3)

岸本 充生

(大阪大学)

データサイエンス
におけるELSI

中澤 栄輔

(東京大学)

脳科学分野
におけるELSI

横野 恵

(早稲田大学)

イノベーションを支える
データ倫理規範

中川 裕志

(理化学研究所)

AIと社会

渡邊 雅司

(半蔵門総合法律事務所)

生成AI時代の情報法

土屋 貴裕

(京都外国語大学)

ニューロテクノロジーと認
知戦の未来: 国家・企業に
よる「脳」の制御とELSI

乾 敏郎

(京都大学)

今度こそ分かる
自由エネルギー原理の
急所

吉田 正俊

(北海道大学)

知覚と行動と学習をつなぐ
自由エネルギー原理

磯村 拓哉

(理化学研究所)

自由エネルギー原理は普
遍的な脳理論なのか？

山下 祐一

(国立精神・神経医療研究センター)

計算論的精神医学入門

長井 志江

(東京大学)

身体性予測情報処理に基
づく認知発達と発達障害

島崎 秀昭

(京都大学)

脳の自由エネルギー
原理：背景と応用

吉本 潤一郎

(藤田医科大学)

学習理論から迫る
脳の意思決定と情動

四本 裕子

(東京大学)

知覚とベイズ～感覚知覚
のモデリングと予測

豊泉 太郎

(理化学研究所)

抽象と確率に関する
脳の情報表現学習を
モデル化する

寺前 順之介

(京都大学)

揺らぎを活かす
脳の計算学習原理

山田 真希子

(量子科学技術研究開発機構)

量子認知科学による
新しい脳モデル

銅谷 賢治

(沖縄科学技術大学院大学)

デジタル脳とは何か、
どう作りどう使うのか

高木 優

(名古屋工業大学)

深層生成モデルとヒト脳活
動の融合研究

笹井 俊太郎

(株式会社アラヤ)

創造性とAI

宮本 健太郎

(理化学研究所)

ビギナーとエキスパート
の思考を推定する
異なる脳の仕組み

越前 功

(国立情報学研究所)

インフォデミック時代にお
けるフェイクメディア克服
の最前線

笹原 和俊

(東京科学大学)

計算社会科学でフェイク
ニュース拡散の仕組みに
迫る

山崎 和行

(NTTデータ経営研究所)

脳科学的アプローチに
基づく偽・誤情報対策

田中 優子

(名古屋工業大学)

誤情報対策に与える認知
バイアスの影響

雨宮 智浩

(東京大学)

錯覚の効果と情報提示
技術への応用

池内 与志穂

(東京大学)

脳オルガノイドによる
次世代脳研究

坂口 秀哉

(理化学研究所)

『創る生物学』としての神
経オルガノイド研究

石津 智大

(関西大学)

『神経美学』
-美、悲哀、崇高畏怖-

井原 綾

(NICT CiNet)

脳活動から心の状態を
読み解く

川添 善行

(東京大学)

空間の美

久保 賢太

(マツダ株式会社)

感性と美がもたらす自動
車の価値

大黒 達也

(東京大学)

脳の予測に基づく音楽の
創造性

高木 大輔

(大阪樟蔭女子大学)

メイクデザインと美

高野 ルリ子

(株式会社資生堂)

化粧表現の知覚・
認知心理学

東原 和成

(東京大学)

嗅覚－健康－美

藤井 進也

(慶應義塾大学)

音楽リズムにおける美

本田 学

(国立精神・神経医療研究センター)

”絆の音楽”の脳科学 ～
バリ島芸能の表現戦略に
学ぶ～

渡邊 克巳

(早稲田大学)

認知・行動の無意識的
側面と社会への応用

有賀 敦紀

(中央大学)

人間の情報処理プロセス
から理解する消費者行動

池田 新介

(関西学院大学)

行動とマーケットに見る
非合理性の世界
-行動経済学の視点から-

岡田 克彦

(関西学院大学)

行動とマーケットに見る
非合理性の世界
- AIの利活用の視点から-

松森 嘉織好

(一橋大学)

ニューロエコノミクス

井上 雅彦

(鳥取大学)

応用行動分析学をベースにし
た自閉症スペクトラム・
発達障害者の支援

井ノ口 馨

(富山大学)

記憶と潜在意識下の
脳機能

大隅 典子

(東北大学)

脳の発生発達と神経発達
障害 Brain Development &
Neurodevelopmental disorders

小池 進介

(東京大学)

精神疾患脳画像研究の発
展はスティグマ軽減に貢
献するか？

小山 慎一

(筑波大学)

ニューロダイバーシティを
考慮したインクルーシブ
デザインの推進

坂井 聡

(香川大学)

学習/知的障害の実際と
パフォーマンスを発揮
するための支援方法

中西 智也

(NTTデータ経営研究所)

障害者から学ぶ
ヒト脳の多様性と可能性

松田 哲也

(玉川大学)

個性の脳科学
～環境との相互作用に
よる社会性の形成～

伊藤 正哉

(国立精神・神経医療研究センター)

こころを健やかにするための
認知行動療法: 基本的考え方
から、テクノロジーを用いた発
展まで

梅田 聡

(慶應義塾大学)

精神・神経症状を生み出す
自律神経活動の特殊性

加藤 忠史

(順天堂大学)

うつ病: その対処と
治療から脳科学まで

佐藤 正之

(国立長寿医療研究センター)

AIによる自動作曲ソフトを用い
た疑似作曲体験が高齢者の
認知機能へ与える影響
～音会～

高橋 英彦

(東京科学大学)

脳の健康と
ポジティブサイコロジー

藤野 正寛

(立命館大学)

マインドフルネスとコン
パッションから考える意思
決定

本田 学

(国立精神・神経医療研究センター)

脳から考える情報医療と
ブレインヘルスケア

松元 健二

(玉川大学)

脳から見た
Well-beingとAgency

宮崎 良文

(千葉大学)

自然セラピー
-生体調整効果と個人差-

山田 真希子

(量子科学技術研究開発機構)

認知バイアスから見た
脳とこころのメカニズム



About 概要

精神医学分野で研究が進む脳の認知行動プロセスの計算原理を数理的に表現したモデルについて、さまざまな産業分野における応用可能性を探る。

Origin 背景

- 「計算論的精神医学」研究とは、精神障害を理解するために、脳の計算原理を数理モデルとして表現する新しい研究分野。
- AIを中心とした大規模情報技術の進化に伴い、この分野の開発が加速。
- 数理モデルの適用範囲は非医療分野にも広がる可能性がある。
- 企業と研究者の協議を通じて、数理モデルの適用可能性を探る取り組みが進められている。

2025 目標

第一人者の先生方が、ニューラルネットワーク、強化学習、ベイズ推論、時系列モデル、個人モデルなど多様な研究の現状と展望を紹介する。参加企業との情報共有を通じて、ロボット、マーケティング、職場のメンタルヘルス等、個性・個人差を考慮し個人の情動を精密にモデル化することによる産業分野への応用可能性を探る。

Suitable 対象

ロボット、マーケティング、職場のメンタルヘルス等、個性・個人差を考慮し個人の情動を精密にモデル化することに関心のある方など。

アドバイザー研究者(予定)

国立精神神経医療センター(NCNP)	山下 祐一 先生
専修大学	国里 愛彦 先生
一橋大学	鈴木 真介 先生
一橋大学	遠山 朝子 先生
産業技術総合研究所	片平 健太郎 先生



About 概要

プライシングにおいて重要となる、内部参照価格やWTP(Willing To Pay)、価格公平感について、個人の心理特性が与える影響のモデル化に向けた検討を行う。

Origin 背景

- ・ プライシングは企業収益に直結する重要な要素であり、決定には多くのステークホルダーが関与する。
- ・ コストプラスによる価格設定から脱却できない企業も多いため、意思決定の複雑化が課題となる。
- ・ 脳科学の知見を活用し、消費者の心理特性を考慮した内部参照価格を明確化することで、最適な価格戦略が可能。
- ・ 市場価値ベースの価格設定により、製品・サービスの価値を適正に反映できると考えられる。

2025 目標

内部参照価格やWTP(Willing To Pay)、価格公平感に対する個人の心理特性(パーソナリティ等)の影響を、脳科学の知見を参考に仮説を構築。検討に当たっては、プライシングに関する脳科学・行動経済学の研究動向を紹介し、消費者行動論やニューロエコノミクスの視点から、有識者を交えたディスカッションを実施予定。

Suitable 対象

- ・ 企業のマーケティング・営業担当者、プライシングに関わる担当者。
- ・ プライシングについて興味を持っている方。

アドバイザー研究者(予定)

中央大学	中村 博先生
中央大学	有賀 敦紀先生
一橋大学	森松 嘉織好先生
関西学院大学	池田 新介先生



About 概要

偽・誤情報問題について、情報科学と脳科学の両観点からアプローチすることで、より高度で実効性のある偽・誤情報対策手法を検討する。

Origin 背景

- 偽・誤情報は社会、政治、経済だけでなく、ビジネス上でも悪影響を及ぼす。
- 近年はディープフェイクや生成AI等の先端技術が悪用されることで手口が高度化・巧妙化。
- 偽・誤情報対策の必要性が高まっているものの、情報技術の進化スピードに人間が追いついていけず、対策が極めて困難。

アドバイザー研究者(予定)

国立情報学研究所	越前 功 先生
東京科学大学	笹原 和俊 先生
名古屋工業大学	田中 優子 先生

2025 目標

本SIGでは、社会の「安心・安全・信頼」を脅かす偽・誤情報問題の中でも、特に情報とその受け手である人間の認知の問題について、情報科学と脳科学(行動科学、心理学等を含む)の両面から紐解く。

さらに大きな社会問題となるリスクを孕んでいる偽・誤情報対策(技術・手法・システム等)およびその社会実装について産学で検討する場の創出を目指す。

Suitable 対象

- マーケティング、広報
- セキュリティサービス事業者
- 金融事業者
- インフラ事業者
- システム開発事業者(Sler)



About 概要

関西大学・石津智大先生をコーディネータに迎え、「美」と脳の関係を探究。脳が捉える「美」と快、特に日本独自の美意識が産業に与える影響を議論する。伝統工芸、音楽、絵画、食などの専門家を招き、脳科学・心理学・行動科学の視点から全3～5回実施予定。

Origin 背景

- ・ 欧米では経営者の「美意識」への関心が高まっている。
- ・ 日本では「日本的価値」への注目がインバウンド需要拡大につながっている。
- ・ 日本文化に根差した美意識を再認識し、企業経営やビジネスに活用することが重要。
- ・ この視点を取り入れることで、企業の競争力強化につながる。

2025 目標

さまざまな分野における「日本の美意識」について、話題提供、ディスカッション等を繰り返し、日本人の脳に刻み込まれている共通的な「日本の美意識」や、その要素を抽出・検討することで理解を深める。同時に、現在、日本企業を覆っている閉塞感をブレイクする「日本の美意識」の可能性を探る。

アドバイザー研究者(予定)

関西大学	石津 智大 先生
東京大学	大黒 達也 先生
他、ゲストや関連する研究者お迎え予定	

Suitable 対象

- ・ 企業のマネジメント層
- ・ プロジェクトリーダー
- ・ 製品・サービス企画・開発部門
- ・ マーケティング部門等の実務担当者



About 概要

自由エネルギー原理・能動的推論の企業への応用可能性について、代表的な分野で会員企業と研究者で議論。ロボティクス・輸送機器（自動車、ドローン等）、コミュニケーションシステム、神経・精神疾患（健常者との比較）を軸に全3回程度実施。

Origin 背景

- ・ 「自由エネルギー原理」は、脳の認知や意思決定の基本的な仕組みを説明する理論。
- ・ 自己組織化されたシステムが、環境内で平衡を維持するために情動的自由エネルギーを最小化することを示す。
- ・ ニューラルネットワークによる処理を含め、この原理の応用可能性を議論。
- ・ 企業経営や技術開発への影響を多角的な視点で考察する場を提供。

2025 目標

- ・ ロボティクス・輸送機器（自動車、ドローン等）
- ・ コミュニケーションシステム
- ・ 神経・精神治療疾患（健常者との比較）

などを毎回のテーマとして、参加会員企業と研究者で全3回程度を実施。

Suitable 対象

- ・ 製造業
- ・ 情報通信業
- ・ 製薬業等の研究開発部門
- ・ AI開発部門等の研究者
- ・ エンジニア等

アドバイザー研究者(予定)

京都大学	乾 敏郎 先生
北海道大学	吉田 正敏 先生
東京大学	長井 志江 先生
京都大学	島崎 秀昭 先生



About 概要

脳科学や心理学の知見を活用し、精神・発達障がいをお持ちの方を含めた多様な人材がインクルージョンし、ウェルビーイングと企業価値向上を実現する方法を検討。

Origin 背景

- 精神・発達障がいのある方の人口と求職希望者数は増加傾向にあり、受け入れ先の部署は飽和状態になりつつある。
- 人手不足が深刻化する中、企業における障がい者インクルージョンの重要性が一層高まっている。
- インクルージョンの実現は容易ではなく、さまざまな課題が存在する。
- 文化的・制度的な側面の両方から、より効果的なインクルージョンの方法論を開発・推進している。

2025 目標

今年度は「精神・発達障がいのある方を含めて、誰もが生き生きと働きやすいワークプレイス」をテーマに、特に「心」「視覚」「聴覚」の3つの観点から、快適なワークプレイス実現のための要素や条件について、研究者を交え議論する対面型（半日）のワークショップを開催。

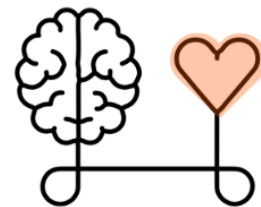
アドバイザー研究者(予定)

障がい者に関する脳科学、心理学、行動科学等の研究者を中心に招へい予定

今年度から新たに実施
障がい者インクルージョン導入研修

Suitable 対象

- 人事部、総務部、サステナビリティ推進部等におけるDE&I推進ご担当者様
- 精神・発達障がいや、ウェルビーイングを実現する空間設計にご関心のある方



About 概要

社会科学、哲学、心理学、脳科学などの専門家が「推し活」について話題提供。NTTデータ経営研究所の人間情報データベースや1万人規模の「推し活」パーソナリティ調査を活用し、会員企業と研究者による議論でその本質に迫る。全3～5回予定。

Origin 背景

- 2023年度の5万人規模調査で「推し活」層は約35%、市場規模8,000億円
- 人気・売上に直結する一方、ニーズ理解不足で失敗やイメージ低下のリスクあり
- 従来は経験則中心で、効果的なドライブ要因の探索に労力・コスト要
- 「推し活」はマス・パーソナライゼーション型消費の象徴で、科学的解析が必要

2025 目標

人間情報データベース（NTTデータ経営研究所保有）等のデータを用い、脳科学、心理学、行動科学的に分析し、「推し活」のパーソナリティ、行動等を探究し、人間科学的な視点から、その消費行動、消費者像を明らかにすることを目指す。

Suitable 対象

- 推し活を活用したビジネスに関心のある企業のマーケティング・商品企画担当者
- 推し活を市場戦略に取り入れたい企業の実務者
- 関連ビジネスの新規展開を検討する企業関係者

アドバイザー研究者(予定)

「推し」の研究者、社会科学、哲学、脳科学や心理学の研究者ご参加予定



About 概要

神経オルガノイドの供給基盤構築と
需要創出を通じ、創薬・医療や基礎
研究を支えるプラットフォームの実現
を目指す。

Origin 背景

- ・ 神経オルガノイド研究は2010年
代半ば以降急速に成長し、全オ
ルガノイド研究の約2割を占める
までに発展。
- ・ 関連市場は欧米を中心に拡大す
る一方、日本の基礎研究はiPS細
胞技術や脳部位の分化誘導で
貢献。
- ・ 精神・神経疾患の病態解明や創
薬、次世代人工知能への応用が
期待される。
- ・ 標準化された高品質な神経オル
ガノイド供給基盤の構築が求めら
れている。

2025 目標

今年度は神経オルガノイド供給
基盤の構築に向けた基礎固め
を行う。参画企業・研究者の
認識合わせ、基本計画の策定
(最先端技術のレビュー、課題
の洗い出し、研究開発ロード
マップの具体化、重点技術課題
の特定)、市場調査、初期
ユーザーニーズ調査を実施。
5ヶ年計画の初年度として基盤
を確立し、将来的な実現へ向け
た第一歩を踏み出す。

アドバイザー研究者(予定)

東京大学	池内 与志穂 先生
理化学研究所	坂口 秀哉 先生

Suitable 対象

- ・ 再生医療・創薬関係者
- ・ 製薬企業、医療機器メーカー
- ・ バイオ関連企業
- ・ 次世代人工知能研究者など



About 概要

2019年から取り組む香りの官能評価と性格・認知バイアス等の人間特性を統合したAI「香り×人」モデルの拡張実験、および当該AIモデルの提供。

Origin 背景

- JST 未来社会創造事業のプロジェクト(2019-2024)で、香りの機能拡張によるヒューメインな社会の実現を目指す。
- 消費者調査で取得した官能評価(嗅覚)と、NTTデータ経営研究所が開発・管理する人間情報DBを活用。
- 香り×人モデルをツール化し、官能評価の可視化や部分的なデータからの予測を実現。
- 消費者特性の可視化を可能にし、香りの影響をより精密に分析。

2025 目標

これまでの取り組みにより、香りのバリエーションを拡張することで「香り×人モデル」の予測精度が向上する結果が得られている。そのため、2025年度も引き続き1,000人規模の消費者調査を実施し、モデルのさらなる精緻化を図る。また、参加企業との連携のもと、当該ツールのユーザビリティや実用性の向上にも取り組む。

アドバイザー研究者

東京大学

東原 和成 先生

Suitable 対象

- 香りに関する商品の開発等で顧客のプロファイル作成にお困りの方
- 消費者調査の代替を模索されている方
- 官能評価と人間特性に興味のある方など



About 概要

100名×100日規模の実環境下における24時間の生理データ・数時間ごとの心理データ・脳波データなどから、個人差も考慮したデータ計測プラットフォーム。

Origin 背景

- ・ 脳・精神疾患の患者増加が社会問題化し、健康経営の取り組みが進展。
- ・ 意思決定・行動の司令塔である脳に着目し、新たな医療手法を研究開発。
- ・ 情報医療(Information Medicine)の活用を通じ、Wellbeingな状態を支援。
- ・ Wellivingを提供する技術・事業の創造と、社会実装(科学的介入など)を推進。

2025 目標

2024年度に引き続き、国のムーンショットPJTやアドバイザーの先生方と連携し、100名100日規模のデータ計測を実施。心理・生理・行動データに加え、歩行・運転データ、脳波データを計測。さらに、遺伝子データの解析や介入効果の個人差・個人内変動、高齢者の心理・生理・行動変動と認知機能の関係を検証するテーマを計画(参加企業と協議のうえ決定)。

Suitable 対象

- ・ 自社製品・サービスの中長期的な効果検証を実環境下で行いたい方
- ・ 時系列データを活用した研究開発手法や最新の研究に関心のある方

アドバイザー研究者(予定)

国立精神・神経医療研究センター	本田 学 先生	量子科学技術研究開発機構	山田 真希子 先生
	伊藤 正哉 先生		
	山下 祐一 先生		
東京科学大学	高橋 英彦 先生	法政大学	木村 健太 先生
東京大学	天野 薫 先生	九州大学	荒川 豊 先生
神戸大学	片岡 洋祐 先生	九州工業大学	井上 創造 先生
立命館大学	山岸 典子 先生	筑波大学	原田 悦子 先生
情報通信研究機構	NAWA Norberto Eiji 先生	社会的健康戦略研究所	浅野 健一郎 先生



About 概要

コミュニケーションにおける脳情報や行動情報を利用し、言語化できない心的表象（違和感や共感など）を可視化/共有するシステムの構築を目指す。

Origin 背景

- ・ テキスト生成AIの台頭に伴い、脳データや行動データなどの言語化できない情報の重要性が増加。
- ・ 言語化できない意見や発想の埋没が組織の創造性低下を招くため、対策が必要。
- ・ 個々の考えや感性を引き出し、情報の遷移や共感を可視化することでコミュニケーションを活性化。
- ・ 創造性の向上を目指し、非言語情報の活用を促進。

2025 目標

2024年度に実施した被験者30名、計10日間、90種類のトピックのコミュニケーション実験データを基に、Transfer entropyを用いたコミュニケーション評価や、脳波・発話データを活用した興味・理解度の予測モデルを構築。また、生成AIエージェントを組み込んだ新たな実験や、「表情認識システム」を活用した表情データの統合、大規模脳波モデル（LaBraM）などの既存学習済みモデルの活用に取り組む。

Suitable 対象

- ・ コミュニケーションなどで脳情報や表情データの活用に関心のある方
- ・ 言語情報を基盤とした生成AIの革新に取り組む方

アドバイザー研究者(予定)

立命館大学	定藤 規弘 先生	アラヤ	笹井 俊太郎 先生
生理学研究所	北城 圭一 先生	アラヤ	蓬田 幸人 先生
横浜国立大学	岡嶋 克典 先生	ベクスト	神田 良輝 先生
東京大学	大黒 達也 先生	SandBox	小山 雄太郎 先生
情報通信研究機構	井原 綾 先生		



About 概要

手書き効果の科学的検証を通じて、想像性・理解度・創造力に対する手書きの効果を脳科学的側面から解明する。

Origin 背景

- ・ 「アナログ価値研究会」で、紙の手帳の記憶想起と脳活動の優位性を発見(2015-2017)。
- ・ 東京大学酒井研究室との共同論文(2021)が大きな反響を得る。
- ・ 手書きの価値を科学的に検証するため、研究会を継続。
- ・ 昨年度のMRI実験・アンケートで、脳活動や媒体使い分けの知見を獲得。

2025 目標

今年度はMRI本実験のデータ取得を進め、手書きの本質的価値を明らかにする実験を進める。また、得られた研究成果を参画企業・研究者連名でプレスリリースし、社会への発信を強化する。これにより、デジタル時代における手書きの新たな意義と可能性を科学的根拠に基づいて社会に提示することを目指す。

アドバイザー研究者

東京大学

酒井 邦嘉 先生

梅島 奎立 先生

Suitable 対象

- ・ ノートや筆記具など、手書きに関連した文具・サービスを提供している企業
- ・ 教育・出版関連企業をはじめ手書きの価値に関心のある企業など

応用脳科学ネットワーク



公式HP

CAN応用脳科学コンソーシアムの公式ホームページやメールマガジン等では、脳科学を中心に、脳、人間に関する世界の最新情報を提供しています。

とくに、産業応用の視点から収集した最新情報は、企業の方にもたいへん好評で、研究開発、技術Trendがわかる有益な情報が満載です。無料で配信していますので、忙しいビジネスマンの方が、移動時間など、すきま時間で最新の情報をキャッチアップするのにご活用いただけます。

公式SNSアカウント

Facebook: <https://www.facebook.com/can.consortium>

Twitter: https://twitter.com/CAN_secretariat
https://x.com/CAN_secretariat

応用脳科学資格検定制度

(応用脳科学プラクティショナー)

脳科学的思考 × AIリテラシー を証明し、新たな可能性をひろげる

応用脳科学コンソーシアムは、脳科学の知識を実践に活用できる能力を証明する「**応用脳科学資格検定制度**」を2023年に創設しました。この資格試験は応用脳科学アカデミーの講義分野と連携しており、受講とレビューテストを通じた復習で試験対策が可能です。

★トップレベルの研究者による監修(敬称略)
茨木 拓也(株式会社NTTデータ経営研究所)
梅田 聡(慶應義塾大学)
大隅 典子(東北大学)
片岡 洋祐(神戸大学)
金井 良太(株式会社アラヤ)
銅谷 賢治(沖縄科学技術大学院大学)
本田 学(国立精神・神経医療研究センター
神経研究所)
松元 健二(玉川大学)
山岸 典子(立命館大学)

効果的な習得

応用脳科学アカデミーの一流の
専門講師陣の講義を視聴し、効率
的かつ実践的にスキルを習得！

- プレミアム会員以上の会員社員であれば誰でも無制限にアカデミー受講が可能！
- オンデマンド形式で必要な講義を選択・複数回視聴が可能！
- 学生は一流講師の講義の受講金額が半額で受講！

資格検定のメリット



- ・リスクリング
- ・キャリアアップを実現



- ・能力の証明
- ・就職活動で差別化



- ・従業員・採用応募者のスキルや思考特性の評価指標

3つの特長



受験資格は年齢制限なし、どなたでも受験可能



応用脳科学アカデミーの講義内容に密接に対応



応用脳科学プラクティショナー[®]合格証書を発行

会員種別		料金（※税込価格）			参加可能コンテンツ				情報提供		
		入会金	年会費	R&D 研究会 参加費	R&D 研究会	SIG※2※3	アカデミー※4		最新 脳科学 ニュース	各種 イベント案内	ナレッジ ベース※5
							オンデマン ド受講	参加 可能人数			
特別会員	法人	110,000 円	550,000 円	2,750,000 円※1 + 実験費	◎	◎	◎	◎※6	◎	◎	◎
R&D 研究会員	法人	110,000 円	550,000 円	各 1,100,000 円+ 実験費	○	◎	◎	◎※6	◎	◎	◎
プレミアム 会員	法人	110,000 円	550,000 円	—	—	◎	◎	◎※6	◎	◎	◎
スタンダード 会員	法人	55,000 円	110,000 円	—	—	○※7 2 つ以上は 110,000 円/SIG	◎	5 名	◎	◎	◎
協賛会員※8	法人	110,000 円	110,000 円 /口※9	—	△※10	△※10	◎	3 名※11	◎	◎	◎
連携会員	※12	なし	なし	—	—	—	—	—	◎	◎	◎
個人会員	個人	11,000 円	11,000 円	—	—	—	3,300 円 /講義	—	—	—	—
学生会員※13	個人	なし	5,500 円	—	—	—	1,100 円 /講義	—	—	—	—

<注釈> ◎：無制限に選択可能、○：個別に選択、×：参加不可

※1 脳モデル開発ユニットに参加される特別会員は、2 つ以上の R&D 研究会に参加される場合、参加費は免除されます（ただし、実験費用は頂戴いたします）。

※2 SIG は、テーマ・内容・規模により参加開催回数、アドバイザー・話題提供者の人数等は異なります（年 1 ～ 5 回、1 ～ 5 人を想定）。基本的には、テーマに沿った話題提供と研究開発、企業内での課題解決への応用・導入等に関する会員様と研究者の方のディスカッションと研究者からのアドバイス等を行います（原則として、実験、調査等はいりません）。

※3 SIG は、テーマによりありますが、原則として、各業界 1 社、各社最大 3 名の参加とします。ただし、先に参加を決定した企業が後から参加する同業企業の参加を承諾すれば、同一または類似業界から 2 社以上が参加することも可能です。

※4 各講義はオンデマンド形式で、会員資格の範囲内において、自由に選択し視聴することができます。講義・講義内容に関するご質問につきましては、講義受講後、メールにて事務局までご連絡ください。事務局より適宜講義者に確認のうえ回答させていただきます。ただし、講義と無関係と判断されるご質問につきましてはお答えできない場合がございますので、ご了承ください。

※5 ホームページ上にあるナレッジベースは別途登録（無料）が必要です。

※6 応用脳科学アカデミーの受講に際し、子会社の従業員など異なるメールアドレスを使用する場合は個別に事務局への登録が必要です。

※7 スタンダード会員の SIG への参加については、いずれか一つの SIG を選択し最大 3 名まで参加可能です。また、他の SIG へは 11 万円（税込）/SIG（最大 3 名）で追加参加することができます。

※8 協賛会員は、CAN 事務局が承認する、CAN の活動に賛同し、自らの有する技術、ノウハウ等を提供することにより研究会、SIG 等の活動に貢献でき、別途定める協賛会員規約を遵守する法人です。

※9 資本金 1 億円以上の法人は、原則、2 口以上を支払うものとします。

※10 協賛会員は、事務局の承認を得たうえで、R&D 研究会、SIG を CAN と共催で組成できます。

※11 協賛会員は応用脳科学アカデミーに 3 名まで参加可能です。

※12 連携会員とは、事務局で承認を受けた CAN の活動に賛同する任意団体、NPO 法人、社団法人、その他公益に資する団体で、自らの活動と CAN の活動を連携することができます。

※13 大学・学術研究機関に所属することを証明する書類が必要になります。受講に当たっては、大学・学術研究機関のドメイン名が入ったメールアドレスが必要になります。

2025/4/9 時点

2024年度	2025年度
特別会員（対象：法人様）（変更なし）	
- 参加料金（税込価格）：入会金110,000円、年会費550,000円、研究会参加費2,750,000円＋実験費 - 実験費用は各R&D研究会ごとに異なります。 - すべてのコンテンツ（R&D研究会、SIG、アカデミー）に参加いただけます。また、複数のR&D研究会に参加される場合、優待価格が適用されます。 - 応用脳科学アカデミーの受講者数に上限はございません。御法人の従業員であればどなたでも受講可能です。 - 脳モデル開発ユニットに参加される会員が複数の研究会に参加する場合、参加費は免除となります（実験費用は要）。	
R&D研究会員（対象：法人様）（変更なし）	
- 参加料金（税込価格）：入会金110,000円、年会費550,000円、研究会参加費1,100,000円（1研究会当たり）＋実験費 - 実験費用は各R&D研究会ごとに異なります。 - ご関心のあるR&D研究会、全てのSIG、アカデミーに参加いただけます。 - 応用脳科学アカデミーの受講者数に上限はございません。御法人の従業員であればどなたでも受講可能です。 特定の研究会にフォーカスしたい企業様に おすすめです。	
スタンダード会員（対象：法人様）	プレミアム会員（対象：法人様）
- 参加料金（税込価格）：入会金110,000円、年会費550,000円 - いずれか1つのSIGに最大2名まで参加可能です。複数のSIGに参加をご希望の場合、110,000円（追加1SIG当たり、最大2名）にて参加いただけます。 - アカデミーに参加可能です。 - 応用脳科学アカデミーの受講者数に上限はございません。御法人の従業員であればどなたでも受講可能です。 - 幅広く脳科学の知見を習得し、事業応用のシーズを見つけたい企業様に おすすめです。	- 参加料金（税込価格）：入会金110,000円、年会費550,000円 上限数なくすべてのSIGに最大3名まで参加可能です。 - アカデミーに参加可能です。 - 応用脳科学アカデミーの受講者数に上限はございません。御法人の従業員であればどなたでも受講可能です。 幅広く脳科学の知見を習得し、事業応用のシーズを見つけたい企業様に おすすめです。
SIG会員（対象：法人様）	スタンダード会員（対象：法人様）
- 参加料金（税込価格）：入会金110,000円、年会費220,000円 - いずれか1つのSIGに最大2名まで参加可能です。複数のSIGに参加いただくことはできません。 - アカデミーは最大15コマ（～10名/コマ）受講可能ですが、うち6コマは「ベーシックコース3 ELSI」となります。残り9コマは自由に選択いただけます。16コマ以上受講をご希望の場合は、1名当たり（税込）11,000円/コマにて受講可能です。 - 法人会員として最もベーシックな会員です。初めて、脳科学を自社事業に応用しようと検討している会員様にお薦めです。	- 参加料金（税込価格）：入会金55,000円、年会費110,000円 いずれか1つのSIGに最大3名まで参加可能です。また、他のSIGへは11万円（税込）/SIG（最大2名）で追加参加することができます。 - アカデミーは5名までは無制限に講義受講可能です（ただし、SIG追加登録で追加された方も同様に無制限で受講可能です）。 法人会員として最もベーシックな会員です。初めて、脳科学を自社事業に応用しようと検討している企業様に おすすめです。
ジュニア会員（対象：法人様）	廃止（スタンダード会員に統合）
- CANの活動に賛同し、中小企業基本法で定める中小企業者の範囲と小規模企業者の定義に該当する法人様が対象となります。 - 参加料金（税込価格）：入会金55,000円、年会費110,000円 - いずれかひとつのSIGに2名まで参加いただけます。複数のSIGに参加いただくことはできません。 - アカデミー講義9コマ（最大5名/コマ）まで参加いただけますが、うち6コマは「ベーシックコース3 ELSI」となります。残り3コマは自由に選択いただけます。10コマ以上受講をご希望の場合は、1名当たり（税込）11,000円/コマにて受講可能です。 - 脳科学の知見を習得し、事業応用のシーズを見つけたい企業様に おすすめです。	

2025年度 応用脳科学コンソーシアム会員体系 変更点(2/2)



2025/4/9 時点

2024年度

トライアルメンバー（対象：個人の方）

- 参加料金（税込価格）：入会金なし、年会費33,000円
- 参加料金は、原則クレジットカード払いとなります（ご要望に応じ、別途、領収書を発行いたします）。
- 上記参加料金にて、アカデミーの講義を9コマまでオンライン受講いただけますが、うち6コマは「ベーシックコース3 ELSI」となります。残り3コマは自由に選択いただけます。10コマ以上受講をご希望の場合は、1名当たり（税込）11,000円/コマにて受講可能です。
- 個人で興味のあるアカデミー講義を選択的に受講したい方におすすめです。



アカデミア会員（プレミアム） （対象：学術研究機関様）

- 参加料金（税込価格）：入会金なし、年会費330,000円
- 上記参加料金にて、アカデミーの全講義を最大25名/コマまでオンライン受講いただけます。
- アカデミーの講義を割引価格で受講したい大学・研究機関様におすすめです。



アカデミア会員（スタンダード） （対象：学術研究機関様）

- 参加料金（税込価格）：入会金なし、年会費33,000円
- 上記参加料金にて、アカデミーの講義を9コマ（最大3名/コマ）までオンライン受講いただけますが、うち6コマは「ベーシックコース3 ELSI」となります。残り3コマは自由に選択いただけます。10コマ以上受講をご希望の場合は、1名当たり（税込）11,000円/3コマにて受講可能です。
- アカデミーの講義を割引価格で受講したい大学・研究機関様におすすめです。



協賛会員（対象：法人様）

- CAN事務局が承認する、CANの活動に賛同し自らの有する技術、ノウハウ等を提供することにより研究会、SIG等の活動に貢献でき、別途定める協賛会員規約を遵守していただける法人様が対象となります。
- 参加料金（税込価格）：入会金110,000円、年会費110,000円/口
- 資本金1億円以上の法人様は原則、2口以上のお支払いをお願い申し上げます。
- 事務局の承認を得たうえで、R&D研究会やSIG等をCANと共催で組成できます。
- アカデミーの講義を9コマ（最大3名/コマ）までオンライン受講いただけます。



連携会員（対象：公益団体など）（変更なし）

- CAN事務局が承認する、CANの活動に賛同する任意団体、NPO法人、社団法人、その他公益に資する団体様が対象となります。
- 参加料金（税込価格）：入会金なし、年会費なし
- CAN事務局との協議により、CAN活動と連携することができます。

2025年度

個人会員

- 参加料金（税込価格）：入会金なし、年会費33,000円
- 参加料金は、原則**クレジットカード**（今後、Paypay支払いを導入予定）となります（ご要望に応じ、別途、領収書を発行いたします）。
- アカデミーの**講義を1講義当たり3,300円/人**で受講いただけます。
- 個人で興味のあるアカデミー講義を選択的に受講したい方におすすめです。**

廃止

廃止

学生会員（新設）

- 参加料金（税込価格）：入会金なし、年会費5,500円、1,100円/講義・人**
- 大学・学術研究機関に所属することを証明する書類が必要になります。**
- 受講に当たっては、大学・学術研究機関のドメイン名が入ったメールアドレスが必要になります。**
- 脳科学に関心があり、アカデミーの講義を割引価格で受講したい大学・研究機関に所属する学生（学部生、修士課程、博士課程を含む）、ポスドクの方におすすめです。**

協賛会員（対象：法人様）

- CAN事務局が承認する、CANの活動に賛同し自らの有する技術、ノウハウ等を提供することにより研究会、SIG等の活動に貢献でき、別途定める協賛会員規約を遵守していただける法人様が対象となります。
- 参加料金（税込価格）：入会金110,000円、年会費110,000円/口
- 資本金1億円以上の法人様は原則、2口以上のお支払いをお願い申し上げます。
- 事務局の承認を得たうえで、R&D研究会やSIG等をCANと共催で組成できます。
- アカデミーは**3名までは無制限に講義受講可能**です。
- ニューロテック、AI、データサイエンス等の専門家集団、ベンチャー企業におすすめです。**

